

# 9月24日～30日は、「結核予防週間」

-日本では、1日に62人が結核を発症しています-

9月24日～30日は、『結核予防週間』です。

厚生労働省では、毎年9月24日～30日を「結核予防週間」と定めて、結核に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。公益財団法人結核予防会では、周知ポスターやパンフレット「結核の常識」等を作成配布するとともに、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」として全国各地で街頭募金や無料結核検診、健康相談等を実施して、結核予防の大切さを伝えています。

結核対策を成功させるには、一人ひとりが結核について正しい知識を持つことが大切です。

## ■ 結核の基礎知識 ～ 結核を正しく理解しよう ～

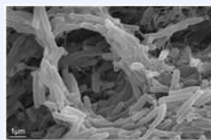
### ●結核は「現代」の病気

明治時代から昭和20年代までの長い間、「国民病」「亡国病」と恐れられた結核も、医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりました。しかし、過去の病気と置いていたら大間違いです。現在、日本の結核罹患率は2010年に人口10万人あたり18.2人で、10人以下となっている欧米先進国に比べまだまだ結核は多く、世界の中では依然「中まん延国」とされています。今でも 1日に62人の新しい患者さんが発生し、6人が命を落としている「日本の重大な感染症」なのです。

### ●結核は「空気感染」する病気

結核とは、「結核菌」によって起こる病気で、結核菌の混ざったしぶきが咳やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。ただし、吸い込まれた結核菌の大半は、鼻、のど、気管支等に付着し、そこにある繊毛（せんもう）の働きによって体外に排出される為感染しませんが、肺まで侵入すると感染します。結核に感染しても、健康で体力があれば、通常は免疫機能が働いて結核菌の増殖が抑えられます。増殖を抑えきれなくなると結核を発病します。

若い世代の多くは結核菌に未感染の為、発症が早い傾向もみられます。



結核菌の電子顕微鏡写真

### ●こんな時は病院へ

結核の初期症状は、風邪とよく似ています。咳（せき）や痰（たん）が2週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診しましょう。

- ☑ 咳が2週間以上続く
- ☑ 痰がでる（痰に血が混ざる）
- ☑ 急に体重が減る
- ☑ 体がだるい
- ☑ 微熱が続く

### ●結核を予防する為には？

結核の予防には、普段から健康的な生活を心がけ、免疫を高めておくことが重要です。

- ☑ 睡眠を十分にとる
- ☑ 適度に運動をする
- ☑ バランスのとれた食事をする
- ☑ たばこを吸わない

### ●医師の指示通り毎日薬を飲めば治ります！

発病しても、「排菌」【咳（せき）や痰（たん）と共に結核菌が空気中に吐き出されること】していない場合は、他の人に感染させる心配はありませんので、入院しなくても通院で治療ができます。治療の基本は服薬です。咳が治まったからといって治療の途中で薬を止めてしまうと、菌は薬への耐性を増し、時に薬の効かない多剤耐性菌になることがあります。